

令和7年度 第2回 城北小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年6月26日（木） 14時30分から16時00分まで
- 2 開催場所 城北小学校 会議室
- 3 出席委員 岩井 弘美子、川嶋 正幸、中川 勝夫、高柳 理子
中川 智博、紙上 理恵、高田 あゆみ、石坂 紀子
- 4 欠席委員 清水 裕人
- 5 オブザーバー 大野木 龍太郎（静岡大学）、井下 俊輔（青少年の家）
鈴木 皓介（高台協働センター）
- 6 学 校 土屋 憲司（校長）、古橋 麻紀子（教頭）、太田 礎子（教務主任）
田村 静（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課・指導主事）
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 田村 静

10 議長の選出

古橋教頭より、議長の選出について意見を求めたところ、川嶋委員から岩井会長を推薦する旨の発言があり、全員異議無くこれを承認した。

11 協議事項

（1）「やさしさ」を形にするために

・総合的な学習の時間における実践について（杉浦教諭）

（2）学校評価の評価項目について

12 会議記録

委員総数9名のうち8名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告が古橋教頭よりあった。

（1）「やさしさ」を形にするために

杉浦教諭より、総合的な学習の時間における実践についての説明があり、委員からは以下の発言があった。

・大人でも難解なこと。子どもたちの考えを学校や地域で実現できるのは良いことなので、様々な意見を切り捨てず、やれそうなことから実現・形にしたい。（紙上委員）

・5・6年でタッグを組んでいる為、トレーシングで課題がどんどん繋がっていく。特色があると思う。（岩井会長）

・技量より中身が大事で、シンプルに教えている。予期しないアイデアが出ることもあるだろうし、子供たちがやる気になって楽しいと感じているように思われる。何より、現場の先生が面白いと思えることが良い。（中川 智博委員）

・授業として素晴らしい。課題を見つけるということは、基本的姿勢である。最終的に“出来ないことをやろう”と解決に向け、ストーリーをつけて取り組んでくれるので、仕上がりを楽しみ。何をやろうか、課題は何か、聞いて終わりではなく、何かしら発言・行動が出来る子、疑問を持つ子に育てて欲しい。大人は“やりたくない”が根本にあるので、幼い頃から授業内でこのような基本的姿勢を身に付けてくれるのは、ありがたい。本音で意見を言わない大人にも、実践して貰いたい。今後、学校で習ったことが、家庭や社会では通じないということが起こりうり、どちらが正しいか疑問を抱く場面があるということを、子どもたちに教えられると良い。（川嶋副会

長)

・自治会においても、上からの押し付けになる場合が多い。自分たちから発信したいテーマがあるにもかかわらず、例年通りで発展がない。探求してレベルアップしてくれるのは良いこと。自治会もそのようでありたい。(中川 勝夫委員)

・これは新しい取り組みであり、予測ができない。テーマが生活基盤の学校、そして委員会に焦点を絞った為、実際にどのような課題・疑問が出るのか。(岩井会長)

→「やさしさ」は曖昧。リーダー意識の強い6年生を中心に、委員会の視点で目標・課題・実現に向けて話し合っている。例えば、運動委員の場合、用具の充実・運動場の使いやすさ等。(杉浦教諭)

→「やさしさ」が生活に入ってきている。情報収集の方法等、自分たちで調査すること自体が学び。子どもたちの発想が面白い。(校長)

・「やさしさ」を形にするというのを、どう考えるか。自分軸と皆で一緒にというのは、一見離れているようだが、重なっている部分もある。委員会活動において、自分がやりたいと思ったことが、クラスや他の学年もやりたいと感じているのか、という疑問が生じる。やりたいけど、やれるかどうかの不安等、其々の思いや行動に表れない部分を掴むことが大切である。異なる考えをどのように合意形成して納得させるか。やりたいことについての合意と納得のプロセスを大事にして欲しい。(大野木さん)

・委員会に焦点を当てた理由が納得出来る。(岩井会長)

・浜松市内において、総合的学習の時間の取り組みについての地域差はある。城北小の場合は、学校という活動の場で、子ども達が成長する姿を見ることが出来る事例であり、勉強になる。(鈴木指導主事)

・2学年・学校生活・委員会と同じ目的を持つ仲間が集まり、学校を良くしていこうという動きはやりがいがある。どう出るのがかわからないから、面白い。(岩井会長)

→4年生における国語授業の思考ツール、ひまわり学級の梅シロップ作りや販売等、教科と総合的学習の入れ子が出てきている。総合的学習と教科のやり取りによって、色々な学びに波及している。応援カードを使って友だちの良いところを見つけることは、「やさしさ」に寄与しているように思われる。(校長)

・総合的学習の時間が面白いと思える。(岩井会長)

・授業が生活に繋がらないのはもったいない。自治会や地元のイベント等、積極的に子どもたちと関わって欲しい。学校の教えや考えたことが生活に役立つと良い。(川嶋副会長)

・小学生の段階で種植えをして、中学生になって地域を支えていく、という形で良いと思われる。(高柳委員)

・「やさしさ」の難しさを教える為の授業である。(川嶋副会長)

・コミュニティースクールは小学校では活発である一方、中学校では部活が減る中で、難しい状況にある。小学校のうちは、今すぐ地域と繋がらなくても、中学校へのステップアップ期間になれば良い。高台協働センターまつりのボランティア等、他にも地域へ広がって欲しい。(高柳委員)

・1997年池田小の事件以降、学校の門が閉ざされた結果、文化的・情緒的視野が狭くなった。失われた30年以前の学校教育に戻る為にコミュニティースクールを増やし、積極的にチャレンジしている。(中川 智博委員)

・自身が校長の時は、“開かれた学校”というのが目玉であり、地域が積極的に校内に入っていく

時代だった。鍵がかかった学校はとても不愉快だったが、子どもの安全が大事。ただ、“閉ざされた学校”は体験不足になるので、今やらざるを得ない。“地域の子は地域で育てる”を共通理解に“開かれた学校”へ回帰して欲しい。場は設定出来るので、繋ぎさえあれば実行可能であろうと思われるが、時間がたくさん必要である。(岩井会長)

・花壇の草取り等において、4年生の生徒が、まるで大人のような丁寧な言葉遣いで話し掛けてくれた。“暑い中、本当にすみません。”地域が学校へ入って行くのも良いことだと感じた。活動日以外でも、学校に来て良いのかと問う声が聞かれるようになった。(高柳委員)

・教育の種が蒔かれて、育ってきている。(岩井会長)

・我々は“閉ざされた学校”しか知らない世代。岩井会長たちが、それ以前の時代についての話をしてくれることは、ブリングバックする良い機会。(中川 智博委員)

・授業が中核にあるので、実態に合ったようにアレンジしなければならない。(岩井会長)

・現場の先生はどのように感じているのか。(中川 智博委員)

→一言で、凄い。子ども達のことをとてもよく考えて下さっていて、感動した。(杉浦教諭)

・ここは、地域・教育愛に溢れた人たちの集まりです。(岩井会長)

(2) 学校評価の評価項目について

太田教務主任より、学校評価の評価項目についての説明があり、委員からは以下の発言があった。

・主体的・協働・多様性のグランドデザインがうまく出ているので、評価がより具体的になると思われる。応援カードの取り組みに関しても、やさしさの元になり、人の身になって相手のことをみつめられる。取り組みが明確な為、安心して主体性を語ることが出来る。たゆまぬ目掛け、声掛けのお陰である。(岩井会長)

その他報告事項等

(1) 学校支援CDより、下記3点についての説明があり、委員からは以下の発言があった。

① 5・6月の城北小サポーター活動実施報告

② 城北小サポーター顔合わせ・説明会報告

③ 「コミスク便り(6月号)」「城北小サポーターQ&A(6月号)」発行について

・コミスク便りはとても好評である。花壇の整備や自治会の方々の登校時の旗振り活動等、子どもたちを見守るボランティアを生きがいにして貰えることは、ありがたい。(岩井会長)

・通学路で目にする看板等の多くは文字が消えかかっている。しかし修繕に費用を要するので、手付かずのままである。(川嶋副会長)

・警察や市役所等の組織に訴えなければならないが、皆黙っているのが現状。本来ならば、声に出すべきだが、このような取り組みが今後も続けられるかは、予測がつかない。交通に関する問題や地域が抱える課題もあるので、今後も話し合いが必要である。(岩井会長)

その他連絡

今回は、10月23日(木)13時15分～14時00分 授業参観、14時10分～15時30分 学校運営協議会を城北小学校会議室で行う。